2024年02月27日（火）【外為Ｌａｂ】松田哲
タイトル：【「実効為替レート」について】

「実効為替レート」が、随所で、話題になることがあります。

新聞などで取り上げるので、そういった際に、話題になるのでしょう。

++

「実効為替レート」に関しては、私の考えは、以下の通りです。

通常は、実際の外国為替レートの変動を考える場合には、あまり、「実効為替レート」を利用しません。

外国為替市場での為替レートは、そういった「実効為替レート」と乖離するケースが頻繁に起こるので、「実効為替レート」を参考にしても、なかなか相場には勝てない、と考えます。

ただし、ファンダメンタルズを考える際に、「実効為替レート」には意義が無いとは考えていません。

相場の変動要因としては、すぐに役に立たない、と言っているだけですのでご注意ください。

++

【実効為替レート】【名目実効為替レート】【実質実効為替レート】に関して、説明を加えておきましょう。

「実効為替レート」は、かなり、マニアックな（専門的な）テーマです。

（1）まず、実効為替レートと通常の為替レートの違いはなんでしょうか？

通常の為替レートは、米ドル/円レートのように、二つの通貨、つまり二国間の通貨の交換比率を表したものです。

例えば、米ドル円/レートが、1ドル＝150.00円は、[1ドル]の値段が[150.00円]であることを示しています。

この値段（交換比率）が、1ドル＝155.00円になれば、「米ドル高円安」になっていることがわかります。

1 ドル＝145.00 円になれば、「米ドル安円高」になっていることがわかります。

しかし、これは、日米二国間の関係だけしか表していません。

++

「実効為替レート」は、特定の二通貨間の為替レートだけではなく、さまざまな通貨に対しての為替レートを勘案して、対外競争力を、単一の指標で総合的に表そうとしたものです。

++
++

（2）実効為替レートの中にも実質と名目がありますが、その違いは何でしょうか？

「名目実効為替レート」は、円と主要な他通貨間のそれぞれの為替レートを、日本とその相手国・地域間の貿易ウエイトで加重幾何平均したうえで、基準時点を決めて指数化する形で算出します。

対外競争力は、為替レートだけでなく、物価の変動によっても変化します。

日本の名目実効為替レートが不変でも、貿易相手国・地域の物価上昇率が日本の物価上昇率を上回っている場合は、日本の相対的な競争力は強くなります。

こういった点を加味した物価調整後の実効為替レートが「実質実効為替レート」です。

具体的には、円と主要な他通貨間のそれぞれの為替レート（名目為替レート）を、その相手国・地域の物価指数に対する日本の物価指数との比を乗じて実質化（実質為替レートを算出）した上で、それぞれの実質為替レートを貿易ウエイトで加重幾何平均して、基準時点を決めて指数化する形で算出します。

++
++

（2024 年 02 月 27 日東京時間 08：20 記述）